

「平和を実現する」とは

岩河敏宏

聖書：マタイによる福音書5章9節

- 9 平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。【新共同訳】
- 9 幸福なるかな、平和ならしむる者。
その人は神の子と稱へられん。【文語訳】

ここに挙げた聖句は、聖書に記されている“平和”に関する聖句の中でも、よく知られている一つです。しかし、この聖句をどれだけ実感を持って受け止めているかと問われると、少し距離感を覚える方もあるのでは、と感じます。

第二次世界大戦(太平洋戦争)での敗戦を経験した日本では、8月になると戦争と平和に関連する番組や報道が多くなります。その影響でしょうか、“戦争”の対義語として“平和”という語が強く連想されていることに原因があるように思います。『広辞苑』で“平和”を調べると、①やすらかにやわらぐこと。おだやかで変わりのないこと。②戦争がなくて世が平穏であることとあり、“戦争”の対義語としての“平和”は二次的です。有史以来、争いが絶えない人類の歩みにあって、“平和”を“戦争”の対義語とすると、実現不可能な難題を要求されているようで、イエスの言葉に距離感を覚えることを危惧します。

聖書の原文には文語訳が近く、「幸福だ…」という

呼びかけは、誰に向けて語られたのか。「いろいろな病気や苦しみに悩む者」(4章24節)たちに「イエスはこの群衆を見て…教えられた」(5章1節～2節)とあります。ですから、山上の説教の語り出しは「幸福なるかな、心の貧しき者。天國はその人のものなり。」(文語訳5章3節)となっているのです。イエスがここで語った“平和(シャローム)”は、ユダヤ人の間で最も使う日常用語の一つです。ユダヤ人は会った時も別れる時も、挨拶の言葉として相手に“シャローム”を祈ります。“シャローム”は、争いがないことを指すのではなく、物質的な繁栄、心身の健康、人間関係の調和など、望ましい状態の総体です。物心・自他の調和は、神との良好な関係が基盤にあることが前提にされ、その意味では宗教的な用語です。病気や苦しみに悩む者に「幸福だ、平和を実現する者」と語る時、痛む者に寄り添うイエスが、実行不可能な難しい要求をすることは考えにくい。病者・貧者・弱者ということで社会から疎外され、挨拶を交わす者も無く、孤独や死と隣り合わせにある者だからこそ、「主にある平安の地」が告げられた時、自分から“シャローム”と語りかける(他者との和を作り出す)、何度無視されても挨拶することを諦めないなら、弱さを知る者と挨拶を交わすことが実現する、とイエスは語るのです。さて、私たちは痛み悩む者と挨拶を交わすこと、平和を実現することを諦めてはいないだろうか。